

# 中学年分科会記録

## 1 授業づくりについて

- ・学年部で事前検討，模擬授業等，協働して授業づくりを行っている。
- ・授業づくりについて（中学年の主な手立て）
  - ①事前読みと課題の設定
  - ②ホワイトボードの活用
  - ③ツールキットの活用  
(中学年は「なぜなら」を使って考えの根拠を明確にして伝えさせている。)
  - ④心情スケールの活用
  - ⑤「あすなるノート」の活用
  - ⑥T 2による問い返し

## 2 自評

### T 1から

- ・事前読みの効果があった。場面や人物について児童がよく把握していた。
- ・課題についての話し合いが価値に迫れるよう，本時の選んだ課題は，児童が考えたものの中から担任が意図的に選んだ。
- ・ツールキットの「なぜなら」は，児童によく身に付いている。「理由は」や，「なぜかという」と言い換えながら根拠を示すことができている。
- ・問い返しを数パターン用意したが，もっと深められる問い返しができたとと思う。
- ・T T指導は，担任以外の立場の先生から話してもらうことで，児童の考える視点に広がりが見られると考へ行っている。
- ・「あすなるノート」に本時のふり返りを書かせる際，どんなことを書けばよいかを提示した。

### T 2から

- ・児童に多面的・多角的な視点を与える役割として参加した。本時は単発の問い返しになっていたの  
で，もっと考えを出させてから問い返したかった。
- ・終末での体験談から，児童の暴露大会になってしまった。児童の体験から，その時の気持ちなどをさらにつっこんで問い返したかった。

## 3 質疑応答

- 指導案通りには進まないが，先生方がうまく軌道修正していた所がよかった。
- △ 児童の実体験が反省会的になっていたが，ノートには「正しいと思ったことはきちんと言いたい。」と書いていた。
- △ 暴露大会からの掘り下げが必要。
- ※ 「あすなるノート」にふり返りを書く際のテーマの掲示は，今回が初めて？

→以前から継続して行っている。

- ※ 本時の心情スケールを使う場面で、児童の考えがずいぶん揺れていた。いつもこれくらい揺れるのか？→ここまで考えが揺れることは今までには無かった。
- △ 本時の価値が「怒られる・怒られない」になっていた。教材にしっかりと浸かり「だめなこと」を確認することが必要。
- △ 児童の考えが内発的ではなく、外発的なものになっていた。
- △ 本時の価値に落とすには、反応Bや反応Cからどう反応Aにもっていくかを考える必要がある。
- △ これまでに学習した別の教材を出し、関連する内容をふり返らせてもよいのでは。
- △ 立ち止まって考える時間が欲しい。話すことに意識が向き、友達の話聞いて考えられていない。8人と少人数のためすぐ自分の番が回ってくる。考える時間を意図的に作りたい。

#### 4 指導助言

(千葉先生)

- ・ 手立てについては、よく機能していた。
- ・ 問いは、価値に迫れるものを教師が考えて提示してもよいと思う。本時では児童から出た課題から意図的に選んでいたことが有効だった。
- ・ ツールキットがしっかり使えていた。
- ・ 心情スケールで児童の考えを可視化するのがよかった。自分なら言えるか言えないかの葛藤場面で気持ちの揺れがよく分かった。
- ・ 「あすなるノート」でふり返るポイントを提示することは大切。評価にもとづいた感想を書かせていることが有効だった。
- ・ さらに高い価値に迫れる課題や問い返しを考えたい。
- ・ 指導案について
  - ① 評価が「考えたかどうか」に留まらず、意欲につながったかを見とれるようにしたい。
  - ② T2の動きが分かるようにT1と分けて明記するとよい。
  - ③ 本時のねらいは、4つの諸様相（心情、意欲、態度、判断力）の中のどれについてか。全体で統一するとよい。